

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572207496		
法人名	株式会社 まつかさ園		
事業所名	グループホーム まつかさ園		
所在地	秋田県能代市二ツ井町字下野家後95-19		
自己評価作成日	令和5年9月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年10月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念である「助け合いの心」に基づき、利用者様一人ひとりのニーズに合わせその人らしく生き活きとした生活を送り、安全、安心な生活環境を整えて、「ここが我が家」と思えるように、住み慣れた地域で、利用者様は残存機能活用しながら職員と共に助け合いながら生活しているところ。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナの影響は未だに続いており、制限は多いものの花見やドライブ、買い物に出かけてストレスの軽減に繋げ、利用者の笑顔を引き出す努力をしています。また、訪問看護師、協力医との連携体制も良好に保たれて終末期に対応し、利用者、家族への親身な支援に努めています。町内住民も何かと気遣いをみせてくれることが多く、家族との関りも大切にし、地域の方々、及び職員が利用者に寄り添い、理念が日々の暮らしに浸透しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を作成し、代表者と管理者と職員は共有し、日々目にする事務所に掲示し実践に繋げている。	理念を職員の心構えとし、利用者が安心して生活できる場を提供できるよう、家族や地域の方々との関係性を大切にして日々の業務に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍もありここ最近では地域行事等なく参加されてない。あれば積極的に参加したい。近所の方と日常会話、挨拶等交流している。	積極的な交流ができない状況が続いていますが、散歩や床屋に出かけたり、町内会や周囲の気遣いもいただきながら地域との関係が保たれています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議等にて認知症の理解を深め、地域住民の貢献を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は令和4年9月から通常開催し、市役所職員、地域包括職員、民生委員、区長、地域住民の方が参加され、その中でその意見を取り入れ、サービス向上に活かしている。	地域の参加メンバーが充実しており、議題に沿ってさまざまな意見が出され、会議が運営に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議参加され市町村職員に情報提供していただき協力関係を築いている。	更新手続きで窓口を訪問したり、行政から情報提供等もあり、緊密に連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者及び全ての職員が身体拘束、高齢者虐待の研修をして理解をし、玄関、居室等の施錠を含め身体拘束をしないケアと虐待を見逃さないよう取り組んでいます。	研修を通じて理解に繋げ、現在その事例はありません。会議においても言葉遣いについて注意を促しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様で現在利用されてる方はおりませんが、研修等で制度について理解し活用できるよう支援している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、家族さん等がわかりやすく説明し理解、納得を図り契約を交わしている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	家族様へは定期的に意見書を年に2回送付し、意見や要望を聞いては検討し対処します。また運営推進会議等外部者へ表せる機会を設け、運営に反映させている。	職員を担当制にし、家族との関りも大切にしています。意見書から苦情等はないようですが、費用負担に関わること等、その時々での相談、要望に対応しています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	職員会議等で職員の意見等聞く機会を設けている。	職員の意見は毎月の会議を通じて伝えられ、また、法人本部の来訪時に直接伝える機会もあります。備品の補充や建物内外の経年劣化による補修、勤務体制等、日々のケアに活かされる例が多くあります。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会、ほっとネットニツ井の同業者との交流の場を作り、サービスの質向上に努めているがコロナ禍もあり最近では交流ができていないが、あれば積極的に参加したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている事、不安な事等遠慮なく話していただけるよう耳を傾け、信頼関係を築けるよう努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族さんの困っている事、不安な事等遠慮なく話していただけるよう耳を傾け、信頼関係を築けるよう努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の意見や要望を重視し、お互い支えあいながら家庭的な雰囲気で行っている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族さんと連携を図り、面会時電話時、お便り等で、職員は本人と家族さんの絆を大切にして、本人を支えていく関係を築いている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	住み慣れた場所、家族、知人等の人との交流が途切れないよう努めている。	行きつけの床屋の利用、帰宅、墓参り、節目ごとの家族とのやり取り等、周囲の方や家族の協力を得ながらこれまでと同様の支援が続いています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう出来るだけリビングに来て頂き利用者様同士の関わりを大切に支援に努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて、本人、家族との連携を図り、相談等支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にあセスメントを行い、日常生活の中で一人ひとりの暮らし方の思いや、希望、意向を十分に把握し、その人らしい生活が送れるよう検討している。	居室で話しやすい雰囲気をつくって話を聞いたり、入浴介助時や日常の関わりの中から意向の把握に努めて申し送りノートで情報を共有し、アセスメントに活かしています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活歴を把握し、本人の経験を活かし馴染みある暮らし方、生きがい等、これまでのサービス利用の経過等把握し、生活環境を作り支援している。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	利用者様に担当職員を定め、ケア会議等課題について話し合い、本人、家族さんから意向を聞いて、現状に即した介護計画を作成している。	担当職員を中心にしてカンファレンスで話し合いが行われ、介護計画を作成しています。医師、看護師の意見も参考にしています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を認知症介護の実践や介護計画に活かし、介護計画に期間を定め、モニタリングを行い状態変化に応じ見直しを行っている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人達と関係を深めることで利用者様の生活が安全で豊かな暮らしができるよう地域行事やボランティア等活用し支援している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、かかりつけ薬局と適切な医療が受けれるよう支援している。家族さんとかかりつけ医との連携を崩さない様交代的に受診したりしています。	本人、家族の希望を大切にして支援しており、家族が通院介助している方の情報はホームと共有しています。医科の協力医とは緊急時の連携も図られ、歯科受診は訪問診療が可能です。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に利用者様の状況報告を行い、適切な受診や看護を受けれるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は速やかに家族さんに連絡を行い、入院先とも情報交換し、出来るだけ早期退院できるよう支援している。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様、家族さんが出来るだけ不安なく事業所側が出来る事を見極め、主治医と連携し支援している。	家族の協力及び協力医の指導、助言を得ながら看取りが行われています。精神面でのケアを必要に応じて実施してもらう等、担当医師から職員のフォローにも協力が得られています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時事故時迅速な対応が出来るようマニュアルを作成し研修等で実践力をつけれるよう取り組んでいる。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練年2回、水害避難訓練年1回と地域との協力体制を築いている。	避難経路の補修は継続課題となっています。自治体と連携して水害対応訓練が行われ、運営推進会議で地域の協力体制について話し合っています。実際に避難を経験したことが今後活かされるものと思われます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格を尊重し、利用者様の尊厳を傷つけるような声かけ、態度に気をつけ対応している。	入浴、排泄介助には利用者の状況に合わせて対応できるように配慮し、声の大きさや声かけの仕方にも気をつけています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の個性を大切にし、その人らしくいられるよう支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の希望、好みを取り入れたり、ホームの畑から旬の野菜を取り入れメニューを作成し、出来る利用者様には準備や片付けを職員と一緒にやっている。	畑で収穫した野菜、季節や行事に合わせた献立を楽しんでいただいています。おしぼりを準備したり、できることを手伝っていただき、必要なサポートを受けながら職員と一緒に食事を摂っています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス、水分量等十分に把握し、一人ひとりの状態を観察し支援に努めている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、寝る前に口腔ケアし、義歯の方は洗浄液を使用し清潔保持に努めている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄面パターンを把握しトイレ誘導を行い、自立の方には出来るだけ布パンツを使用してもらい、プライバシーに配慮して支援に努めている。	チェック表を活用した支援が行われています。入居後もポータブルトイレの使用を続けることができ、その人に合った排泄用品への変更等、費用負担の軽減に繋がる取り組みも行っています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、水分補給、規則的食事を行い、個々に合わせヤクルト、ヨーグルト等を取り入れ便秘予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	健康状態を確認し、くつろいで入浴できるよう支援している。	1日3人の入浴を基本としており、リフト浴を装備していますが、現在は一般浴でゆっくり入浴を楽しんでいます。毎日入りたい方には状況をみて声をかけ、水虫の方の保清対応も行っていきます。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの睡眠パターンを把握し安心して休めるよう支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の内服の目的、副作用、用法、用量を把握し適切に服薬できるよう支援している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常での掃除、食器拭き、洗濯干し、洗濯物たたみ等職員から感謝の声かけを行っては、張り合いや喜び、楽しさ等活かせるよう支援に努めている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	桜やツツジを見に行ったり、ドライブに行ったり、散歩に行かれたりと外出支援に努めている。	支援には家族の協力が得られている他、散歩は日常的に行っており、ドライブや個別の希望に合わせた買い物にも出かけています。出かけることで利用者の表情の違いを実感することが多いことから、できる限り外出できるよう支援に努めています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族さんが欲しいものがあたらホームで購入していただきたいとお金の預かり金は行っておりません。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、光、臭い、温度等に配慮し、季節に応じて飾りつけしたり、家庭的雰囲気作りをし居心地良く過ごせるように努めている。	夜間のトイレ使用時に自動点灯するようにして事故防止に繋がっています。また、床暖房による乾燥を防ぐ対策に毎年取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が楽しく過ごせる様場所作りし、会話やテレビ鑑賞、歌を唄ったりと思ひ思いに過ごせるよう工夫しております。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使ってた馴染みある物を置き、本人が居心地よく過ごせる様支援に努めている。	使い慣れた物の持ち込みを勧めており、ベッド周りを在宅時と同様の環境にして過ごしている方もいます。利用者それぞれが生活しやすい環境となるよう支援しています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行出来るよう手すりを設置し、身体機能に応じ生活できるよう支援に努めている。		